房総の文化財

VOL.59

木戸台遺跡発掘風景

- ［遺跡紹介］横芝光町木戸台遺跡
- ［遺跡見学会報告］横芝光町木戸台遺跡
- ［出土遺物公開事業］
  令和元年度の報告「eco生活事始め－考古資料から見た上手な資源の使い方－」
  令和２年度の予告「北方交流録－北とつながる五つの物語－」

発　行｜公益財団法人 千葉県教育振興財団　　発行日｜令和２年３月３０日
編　集｜〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2　TEL. 043-422-8811（代）　FAX. 043-424-8850
URL http://www.echiba.org/bunkazai_top.html
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

重なり合う縄文と古墳のムラ

遺跡
木戸台遺跡

横芝光町木戸台遺跡は、九十九里平野を横断して太平洋に注ぐ栗山川とその支流である高谷川右岸の標高 38m前後の台地上にあり、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）大栄－横芝区間の建設に伴って、平成 29 年度から発掘調査が行われています。これまでの調査で、縄文時代中期中頃～後半（約5千年前）の竪穴住居跡や貯蔵穴と考えられる土坑のほか、古墳時代や奈良・平安時代の竪穴住居跡などが見つかり、多量の遺物が出土しました。令和元年度調査区の木戸台遺跡（2）では現在も調査が行われており、同様に多数の遺構群が見つかっています。これらの調査成果から、同じ場所で時を越えて重なり合う縄文時代と古墳時代の2つのムラの広がりが次第に明らかになってきています。

重なり合う２軒の竪穴住居跡
縄文時代の丸い住居跡（左）が古墳時代の四角い住居跡（右）によって壊されている様子が見てとれます。

大珠（縄文中期）
縄文中期に盛行した環状集落など、地域の拠点となる大規模な集落から発見されることが多く、木戸台遺跡が本地域の拠点集落であったことを裏付ける貴重な資料です。

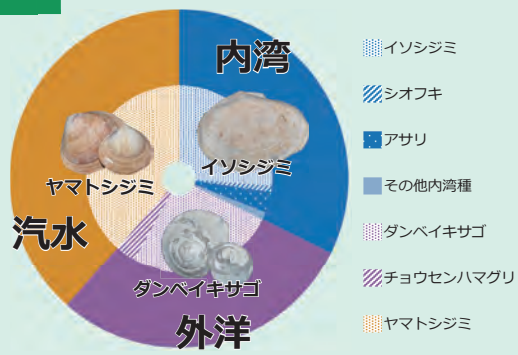
木戸台遺跡（2）
調査面積：1,348㎡
調査期間：令和元年10月１日
～令和２年３月６日

木戸台遺跡（1）～遺構内貝層の整理作業～

前号（vol.58）でご紹介した縄文時代中期の遺構内貝層（竪穴住居跡や土坑の中に捨てられた貝殻）の整理作業から、当時の資源利用の様子が次第に明らかになってきました。

木戸台遺跡の人々が利用した主な貝類は、内湾性のイソシジミ、外洋性のダンベイキサゴ（ながらみ）、汽水性のヤマトシジミの3種類で、内湾・外洋・汽水と呼ばれる異なる水域に生息する貝類をおおむね1：1：1の比率で利用していたことがわかりました。一般的に、太平洋に注ぐ河川流域の貝塚では、ダンベイキサゴやチョウセンハマグリなどの外洋性の貝類が全体の8～9割を占めることが多いのですが、今回見つかった木戸台遺跡の貝層の分析では、河口などの汽水域から外洋沿岸にわたる幅広い水域で貝類資源を得ていたことがわかりました。このことは、当時の遺跡周辺の水域環境を考えるうえでもとても重要な情報です。現在では弓なりをした九十九里浜の海岸線ですが、木戸台遺跡が形成された縄文時代中期には、九十九里浜北側の栗山川（横芝光町）と新川（旭市）周辺に海が入り込み、それぞれ古多古湾と椿海と呼ばれる内湾が広がっていました。特に栗山川流域に見られた古多古湾は、谷奥ほど広く開けた特徴的な形をしており、広大で資源豊かな干潟や潟湖が形成されていたと考えられています。安定的に利用できる貝類などの食料資源が豊富な古多古湾周辺だからこそ、木戸台遺跡のような大規模な集落が営まれたと考えられます。

木戸台遺跡の貝種組成



実際に出土した貝殻で貝種組成を表してみました。

紹介

（横芝光町）

古墳時代の大型住居

木戸台遺跡では、平成30年度の調査区で古墳時代後期の竪穴住居跡が2軒見つかっていますが、今回紹介する令和元年度の調査区では10軒以上の竪穴住居跡が集中して営まれています。両調査区の間は令和2年度以降に発掘調査が予定されており、さらに多くの古墳時代後期の竪穴住居跡の広がりが想定されます。

令和元年度の調査で注目されるのは、大型の竪穴住居の存在です。中でも、1020号竪穴住居跡は、1辺9m以上の規模を誇っています。このような大型住居は、ムラの有力者の住まいと考えられます。また、この遺跡からは石製模造品とともに、その未成品と思われる石片も出土しており、近くに石製模造品の製作工房があった可能性もあります。

木戸台遺跡の南東300mほどには、前方後円墳1基、円墳4基、方墳1基で構成される木戸台・町原古墳群が所在し、古墳時代後期の埴輪片が確認されています。この古墳群を支えたムラとして、木戸台遺跡を位置づけることができると思われます。

杯（1010号）

甕（1009号）　高杯（1011号）

竪穴住居跡出土土器

有孔円板　未成品

石製模造品（遺構外）

石製勾玉（1032号）

1020号竪穴住居跡全景

1020号竪穴住居跡壁際の遺物出土状況

1009・1010号竪穴住居跡全景

1009号竪穴住居跡土器出土状況

木戸台遺跡見学会

遺跡見学会は、令和元年12月7日（土）の午前11時から午後2時まで行いました。調査中の発掘現場では、遺跡全体の様子や縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居跡などの遺構や遺物について説明をしました。展示では、平成29年度から今年度までの発掘調査で出土した縄文土器や石器・玉類、古墳時代の石製模造品などを、実物とともに写真パネルで紹介し、随時解説を行いました。

当日は、真冬並みの気温と降雨により、見学者はあまり多くありませんでしたが、その分、多くの質問に対して丁寧に対応することができました。

出土遺物公開事業

この事業は、当財団が実施する埋蔵文化財の発掘調査で出土した考古資料の有効活用を図るため、旧石器時代から中・近世の歴史上・学術上価値の高い資料を公開し、広く県民が埋蔵文化財に対する理解を深めることを目的として実施しています。

令和元年度の報告

【eco生活事始め–考古資料から見た上手な資源の使い方–】

今回の展示では、「eco生活」を「環境や省エネに配慮した生活」と位置づけ、旧石器時代から近世までの出土品や遺跡・遺構のようすから、資源を上手に使った「eco生活」が原始・古代から始まっていること、当時の人々がさまざまな知恵や工夫をしていたことなどを紹介しました。

第I部の「道具の再加工・補修=Reuse」は、「欠損・消耗した製品を再加工・修理して、本来の用途で繰り返し使う」として、石器石材の乏しい千葉県ならではの究極の有効利用がみられる旧石器時代の石器、補修孔を開けて容器として再利用した縄文時代の土器などを展示しました。第Ⅱ部の「道具の転用=Recycle」は、「製品の部品や部分を使って本来の用途とは異なる製品として再資源化・再利用する=転用(二次利用)」と定義し、土器や石器・瓦・木製品などさまざまな転用例を紹介しました。第Ⅲ部は、「eco生活事始めの世界=Reduce」というテーマで、第I部・第Ⅱ部を包括した「循環型社会」について、特に、縄文時代中期の大型貝塚である千葉市有吉北貝塚をモデルとして展示のまとめとしました。

展示風景
(千葉県立房総のむら風土記の丘資料館)

講演会

日時：令和2年2月8日(土)午前10時30分～午後3時40分
会場：袖ケ浦市民会館大ホール
講演：①「定住生活を支えた縄文人の資源活用」
西野雅人　千葉市埋蔵文化財調査センター
②「古墳時代から平安時代における資源の有効活用」
栗田則久　(公財)千葉県教育振興財団
③「江戸はリサイクル都市だったのか-出土遺物からみた江戸のゴミ事情-」
仲光克顕　東京都中央区教育委員会
パネルディスカッション：「資源利用のあり方と持続可能な社会に向けて」

講演会のようす
(袖ケ浦市民会館)

展示開催館と期間

- **千葉県立房総のむら風土記の丘資料館**
  令和元年8月3日(土)～9月23日(月・祝)
- **松戸市立博物館**
  令和元年10月5日(土)～11月24日(日)
- **袖ケ浦市郷土博物館**
  令和2年1月11日(土)～3月1日(日)

講座

日時：令和元年11月4日(月・祝)
午後1時00分～午後3時00分
会場：松戸市立博物館講堂
演題：「eco生活事始めの世界」
講師：上守秀明
(公財)千葉県教育振興財団

講座のようす
(松戸市立博物館)

解説会のようす（松戸市立博物館）
解説会は各館２～３日実施

※展示図録や見どころ解説は、当財団ホームページに掲載しています。

令和2年度出土遺物公開事業の予告

テーマ **「北方交流録 –北とつながる五つの物語–」**

千葉県は、周囲が海に面し、内陸は関東各地やその周辺地域とつながっている環境のもとで、原始・古代から様々な地域と交流を重ねてきたことが、発掘調査の成果から分かっています。

今回の展示では、主として宮城・福島などの南東北地方を中心に、関東地方の例を加えて、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の五つの時代における文化的交流について、出土品や遺跡・遺構を通じて紹介します。

【展示開催館と期間】

- 流山市立博物館
  令和2年7月18日(土)～8月30日(日)
- 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
  令和2年10月3日(土)～11月29日(日)
- 千葉県立中央博物館
  令和3年1月9日(土)～2月14日(日)

【講演会】(予定)

- 千葉県立中央博物館講堂
  令和3年1月30日(土)

これらに関するお問い合わせは…(公財)千葉県教育振興財団 文化財センター　調査第二課　電話:043−424−4850